

広島県感染症発生動向月報

[広島県感染症予防研究調査会]

(令和元年8月解析分)

1 今月のトピックス

(1) RSウイルス感染症について —乳幼児の感染は要注意！！—

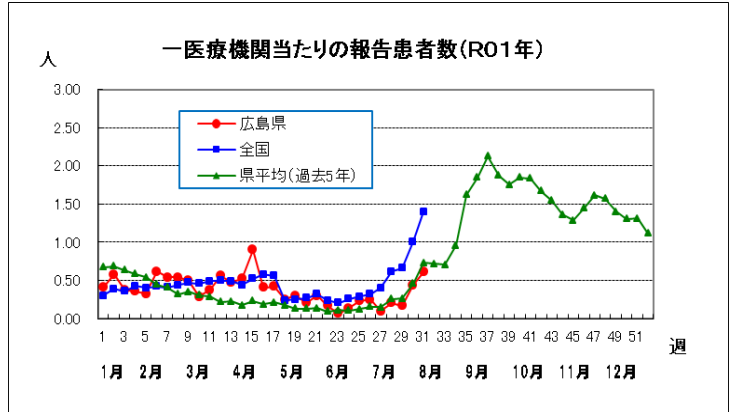


厚生労働省 RSウイルス

検索

RSウイルス感染症の報告患者数が、全国的に7月下旬より増加傾向にあります。

RSウイルス感染症は、かぜに似た症状で、多くの場合軽症で治りますが、感染力が強く、1歳未満の乳幼児や、先天性疾患、慢性肺疾患など基礎疾患を持つ小児の場合は、重症化の恐れがあるため注意が必要です。



●症状

- RSウイルスを原因とする感染症で、2～8日（通常4～6日）の潜伏期の後、発熱、鼻汁などの症状が数日続きます。
- 重くなる場合には、咳の悪化、喘鳴、呼吸困難などの症状が出現し、場合により、細気管支炎、肺炎へと進展します。

●感染経路

- 咳やくしゃみによる「飛沫感染」や、ウイルスの付着した手指やおもちゃなどの物品を触ったり、なめたりすることによる「接触感染」です。

●予防方法など

- 手洗いの徹底（石けん、消毒用アルコール及び塩素系消毒薬が有効）が予防の基本となります。
- 咳などの呼吸器症状がある場合は、マスクを付ける、口と鼻をティッシュペーパーなどで覆うなど、周りの方への感染防止に心がけてください。
- ワクチンや特效薬はありません。治療は、咳止め薬や去痰薬の投与、適切な水分補給などの対処療法が主体となります。
- かぜの症状が現れたら、症状では他の感染症と区別が付きにくいので、早めに医師の診察を受けましょう！！

(2) 日本紅斑熱について



日本紅斑熱 広島県

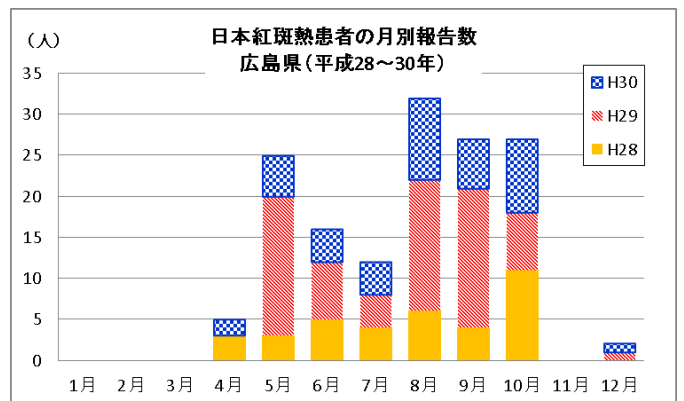
検索

広島県内では、例年、8月から10月を中心に、マダニ類による感染症の一つである「日本紅斑熱」の患者が増加します。過去3年においては、この3か月の合計患者数が、1年間に発病する患者数の約6割を占めていました。

農作業やレジャーなどで、草むらや藪などマダニが多く生息する場所で活動する際には、マダニに咬まれないよう、長袖、長ズボン、帽子、手袋などを着用し、肌の露出を少なくしましょう。

また、虫よけ剤の使用も、補助的な効果があります。

日本紅斑熱の症状、治療、予防などの詳細は、広島県のホームページを御覧ください。



2 疾患別定点情報 【速報値】

(1) 定点把握(週報)五類感染症

令和元年7月分(令和元年7月1日～令和元年8月4日:5週間分)

No	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号	No	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号
1	インフルエンザ	16	0.03	0.02	↑	10	ヘルパンギーナ	845	2.38	2.20	↑
2	RSウイルス感染症	108	0.30	0.37	↔	11	流行性耳下腺炎	60	0.17	0.59	↓
3	咽頭結膜熱	233	0.66	0.66	↔	12	急性出血性結膜炎	1	0.01	0.02	
4	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	445	1.25	1.86	↓	13	流行性角結膜炎	66	0.69	0.93	↔
5	感染性胃腸炎	1,446	4.07	4.29	↓	14	細菌性髄膜炎	1	0.01	0.00	
6	水痘	67	0.19	0.41	↔	15	無菌性髄膜炎	0	0.00	0.03	
7	手足口病	2,885	8.13	3.07	↑	16	マイコプラズマ肺炎	6	0.06	0.19	
8	伝染性紅斑	156	0.44	0.20	↔	17	クラミジア肺炎	0	0.00	0.00	
9	突発性発しん	135	0.38	0.45	↓	18	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	2	0.02	0.01	

(2) 定点把握(月報)五類感染症

令和元年7月分(7月1日～7月31日)

No	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号	No	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号
19	性器クラミジア感染症	75	3.26	2.37	↑	23	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	58	2.76	3.50	↓
20	性器ヘルペスウイルス感染症	27	1.17	0.93	↔	24	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	9	0.43	0.40	
21	尖圭コンジローマ	20	0.87	0.63	↓	25	薬剤耐性緑膿菌感染症	0	0.00	0.09	
22	淋菌感染症	19	0.83	0.82	↔						

※「過去5年平均」:過去5年間の同時期平均(定点当たり)

※ 報告数が少数(10件程度)の場合は発生記号は記載していません。

急増減疾患!!(定点当たり前月比2倍以上増減)
 ○急増疾患 **ヘルパンギーナ (1.15 → 2.38)**
 ○急減疾患 **なし**

発生記号(前月と比較)

急増減	↑	↓	1:2以上の増減
増減	↔	↔	1:1.5～2の増減
微増減	↔	↔	1:1.1～1.5の増減
横ばい	↔		ほとんど増減なし

定点把握対象の五類感染症(週報対象18疾患,月報対象7疾患)について,県内177の定点医療機関からの報告を集計し,作成しています。

	内科定点	小児科定点	眼科定点	STD定点	基幹定点	合計
対象疾病No.	1	1～11	12, 13	19～22	14～18, 23～25	
定点数	43	71	19	23	21	177

3 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況 【速報値】

類別	報告数	疾患名(管轄保健所)
一類	0	発生なし
二類	27	結核(27)〔西部保健所(2),西部東保健所(2),東部保健所(7),北部保健所(1),広島市保健所(11),呉市保健所(2),福山市保健所(2)〕
三類	5	腸管出血性大腸菌感染症(5)〔広島市保健所(2),福山市保健所(3)〕
四類	14	A型肝炎(1)〔福山市保健所(1)〕,E型肝炎(2)〔西部保健所(1),東部保健所(1)〕, レジオネラ症(6)〔西部保健所(1),東部保健所(1),広島市保健所(4)〕, 重症熱性血小板減少症候群(2)〔西部保健所(1),福山市保健所(1)〕, 日本紅斑熱(3)〔東部保健所(2),呉市保健所(1)〕
五類	52	アメーバ赤痢(2)〔西部保健所(1),北部保健所(1)〕, ウイルス性肝炎(E型,A型除く)(1)〔広島市保健所(1)〕, カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症(4)〔西部保健所(2),呉市保健所(2)〕, ジアルジア症(2)〔西部東保健所(1),福山市保健所(1)〕, 劇症型溶血性レンサ球菌感染症(2)〔西部保健所(1),広島市保健所(1)〕, 侵襲性肺炎球菌感染症(3)〔東部保健所(1),広島市保健所(2)〕, 水痘(入院例)(2)〔西部保健所(1),東部保健所(1)〕, 播種性クリプトコックス症(1)〔広島市保健所(1)〕,破傷風(1)〔西部保健所(1)〕, 梅毒(8)〔西部保健所(1),広島市保健所(3),福山市保健所(4)〕, 百日咳(20)〔西部保健所(5),西部東保健所(5),東部保健所(1),北部保健所(4), 広島市保健所(4),福山市保健所(1)〕, 麻しん(6)〔福山市保健所(6)〕